

ベトナムビジネスを成功に導くための 課題と取組

1. ベトナムサポートデスク活動概要
2. ベトナム概要
3. 経済指標・市場概要

1-1.埼玉県ベトナムサポートデスク概要

埼玉県ベトナムサポートデスク

住所: 444 Hoang Hoa Tham, Tay Ho District, Hanoi

電話: +84-24-3247-4639

Email: vietnam-bsd@nc-net.vn

業務時間: 8:00～17:00

(現地時間／日本より2時間遅れ)

休日: 土曜日、日曜日、祝日、年末年始

ガイド(ホーチミン): 鈴木一也

ガイド(ハノイ): Bui Thi Hong Hanh

他、13人のスタッフにてサポート致します。

【例えばこんな時にお問い合わせ下さい】

- ・海外に進出すべきか悩んでいる。
- ・ベトナムの市場状況や基本的な情報を知りたい。
- ・調達したいものがあるが、ベトナムで調達できるかどうかわからない。
- ・製品を販売したいが、売れるかどうかわからない。
- ・既にベトナムとのビジネスを開始しているが、仕事の仕方など不安要素がある。



埼玉県ベトナムサポートデスク: <https://www.saitama-j.or.jp/vietnam-sd/>

1-2. 具体的な相談事例（未進出企業）

	相談元	相談内容	デスク対応内容
事例1	照明販売企業	インテリア照明の調達先、また日本規格サイズのスイッチ、コンセントプレートの調達先を探してほしい。	インテリア照明調達先候補20社、スイッチ、コンセント調達先20社をレポート。
事例2	フィルター製造企業	ベトナムでの販路拡大の為に、製造業と繋がりのある商社等訪問したい。	タイサポートデスクとの連携で紹介していた企業をベトナムに訪問。現地にて製造業機器を扱う日系企業へ同行訪問。
事例3	電源関連メーカー	部品委託加工先を探したい。	当初、自社製品の現地での売り込みで動いていたが、部品調達の可能性を提案。図面をもらい、製造可能企業のリストアップをする。
事例4	銀行	顧客からの依頼。家畜飼料の生産、及び輸入販売に関し、ベトナム投資条件を調べてほしい。	家畜飼料に関する投資ライセンス、設置場所、工場・設備仕様、雇用人材、倉庫・電気・水道仕様に関する規定及び輸入規制に関するレポート。
事例5	産業機器製造企業	工場進出を考えているが、まずは設計事務所からスタートを考えており、設計事務所、設備製造をしている企業をまわり情報収集をしたい。	設計が行える企業、また、設備製造をしている現地ローカル企業を5社リストアップし、同行訪問する。

1-3.具体的な相談事例（進出企業）

	相談元	相談内容	デスク対応内容
事例1	ネジ製造及び 商社企業	ベトナム北部のローカル企業でヒートシンク製造企業を教えてください。	ローカル企業3社をリストアップし報告。
事例2	電気機器製 造企業	ハノイ工業大学のジョブフェアに参加したい。	埼玉県と提携関係のあるハノイ工業大学主催のジョブフェアの告知をし、参加意向があった。出展準備等詳細情報を大学側に聞き報告する。
事例3	建設企業	工場工事を受注。工事期間に適用される全ての補償をカバーする保険に入りたい。	この手の保険を扱っている日系の保険会社を紹介し成約に至る。
事例4	溶剤、薬剤販 売企業	アルマイト処理をしている企業へ営業をかけたいので教えてください。	日系進出企業情報はほぼ網羅しているということだったので、ローカル企業を2社ほど紹介する。
事例5	設備機械メー カー	自社で製造しているダイカスト設備に関し、売り込み先を徐々に開拓していきたい。	ある程度大きな企業で、投資が可能と思われるローカル企業にコンタクトし、設備の説明をするために一緒に訪問した。近い将来この設備の追加投資を考えており、見積もり提示をした。

1-4. 県企業のビジネス動向

相談案件、企業訪問などを通じて、県企業の動向は以下のような傾向があると思われる。

- ベトナム人実習生を本社で受け入れている。任期を終えベトナムに帰国した際の受け皿となる現地法人を設立したい。(せっかく自社の仕事を覚えてもらったのにもったいない)
- 本社が深刻な人手不足。現地法人を設立し、人材を育て将来日本で働いてほしい。
- 将来現地工場を設立したいが、受注案件がないので、まず小さな投資で設計事務所を設立し、設計作業を安価なベトナムで行いながら、今後の市場性を模索したい。
- 進出は考えていないが、コストパフォーマンスがよさそうなローカル企業の外注先を探したい。
- 日本で販売している製品、設備、部品など、ベトナムで販売したい。
- 現地に一部部品加工のみしていたが、自社でユニットまで完成し納品するために調達先企業を探している。
- 現在受けている作業が手一杯。同業者の外注先を探している。
- コロナ禍で現地訪問ができなかったが、行動制限がなくなったので、コロナ以前から検討していた進出に関わる情報収集を始めたい。
- 中国に外注先があるが、チャイナリスク回避を考え、ベトナムに外注先を探していきたい。

ベトナム概要

ベトナムと周辺国の地図



ベトナム社会主義共和国

人口:9,851万人(2021年)

面積:33万1,690km²

一人当たりGDP:3,694USD(2021年)

宗教:仏教、カトリックなど

言語:ベトナム語

進出日本企業:2,306社(2021年)* 出典:
外務省「海外進出日系企業拠点数調査」

在留日本人:22,185人(2021年10月1日現在)
* 出典:外務省「海外在留邦人数調査統計」

2022年最低賃金

区分	適用地方の一例	月間最低賃金	時間最低賃金
地域Ⅰ	ハノイ市、ホーチミン市、ドンナイ、ビンズン省、ハイフォン市の主な地域、クアンニン省のハロン市、バリアブンタウ省のブンタウ市、フーミー町	468万ドン	2.25万ドン
地域Ⅱ	ハイズン省のハイズン市、フンイエン省のフンイエン市等、ビンフック省のビンイエン市等、バクニン省のバクニン市等、タイグエン省のタイグエン市等(主に各地域の中心地)	416万ドン	2万ドン
地域Ⅲ	Phuc Dien, Dai An, Pho Noi B, Binh Minhの工業団地などがある省	364万ドン	1.75万ドン
地域Ⅳ	Quynh Phong, Nguyen Duc Canh, Dinh Tram, Dak To, Long Ducの工業団地などがある省	325万ドン	1.56万ドン

3-1 各国のGDP

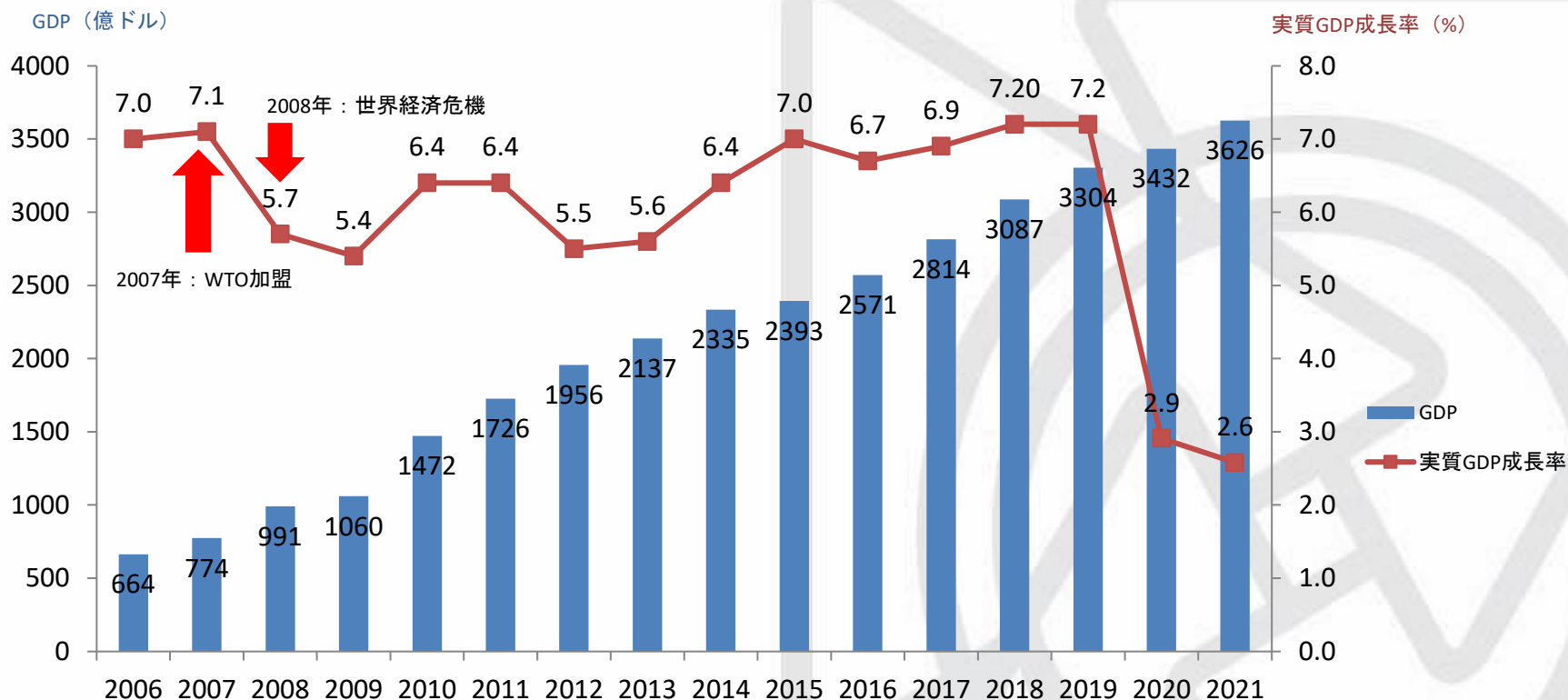
- 2016年ベトナムのGDPは2053億ドルで、ラオスとカンボジアより高かったが、ASEANの他の国と比べるとまだ低い。
- 日本でいうと、埼玉県と同等くらい。
- 2021年ベトナムのGDPは3,626億ドルである。

単位：億ドル

																2021
インド	12,167	11,989	13,419	16,756	18,231	18,276	18,567	20,391	21,036	22,948	26,528	27,132	28,751	26,230	31,734	
インドネシア	4,322	5,102	5,396	7,551	8,930	9,179	9,125	8,908	8,609	9,319	10,156	10,422	11,192	10,584	11,861	
タイ	2,629	2,914	2,817	3,411	3,708	3,976	4,203	4,073	4,013	4,134	4,563	5,065	5,437	5,018	5,06	
マレーシア	1,935	2,308	2,023	2,550	2,980	3,144	3,233	3,381	3,014	3,013	3,190	3,586	3,647	3,367	3,727	
フィリピン	1,560	1,810	1,761	2,084	2,342	2,619	2,839	2,975	3,064	3,186	3,285	3,468	3,768	3,615	3,941	
ベトナム	774	991	1,060	1,472	1,726	1,956	2,137	2,335	2,393	2,571	2,814	3,087	3,304	3,432	3,626	
ラオス	42	54	58	71	87	102	119	133	144	158	169	180	182	191	188.27	
カンボジア	86	104	104	112	128	141	152	167	181	200	222	246	271	253	269.61	

3-2. GDP成長率

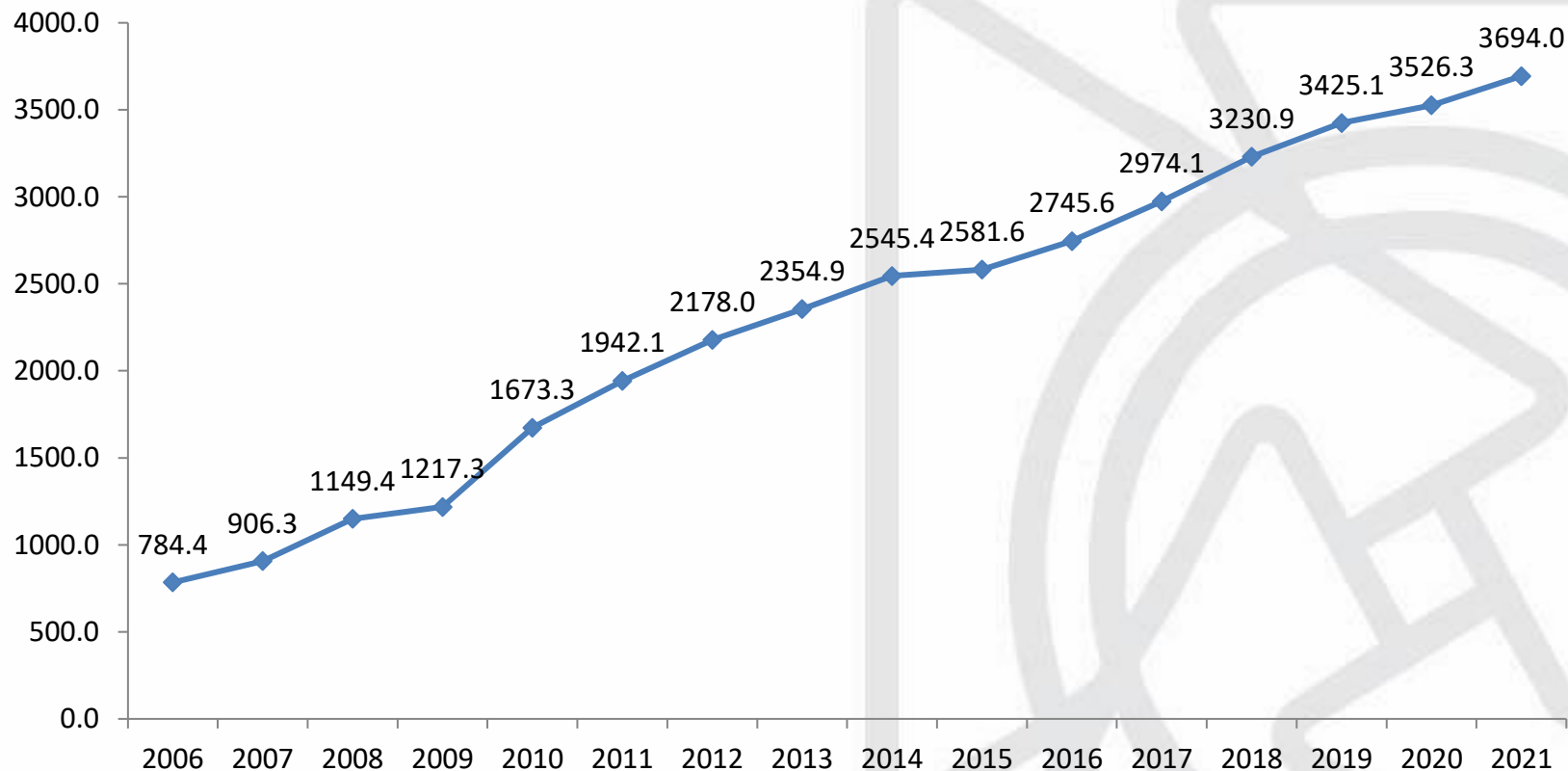
- ・2012年：不況。約55,000社の倒産。GDP成長率は低下し5.2%に。
- ・2013年：政府は経済回復策及びインフレ抑制策に於いて努力し続け、預金金利は6%、貸出金利は12~13%に低減。このことで企業活動回復。GDP成長率は2012年から若干回復し5.4%に。
- ・2014年：世界第2位のGDP成長率。（第1位は中国）
- ・2015年：GDP成長率は6.68%に達し、国会の目標である6.2%より0.48%高い。過去5年間で最高。
- ・2016年：2015年（6.68%）より低く、2016年目標成長率（6.7%）も達成しなかった。
- ・2019年：国内総生産（GDP）は7.02%の伸び率を達成。これは目標値である6.6~6.8%を上回った。地方まで徹底的に政策を運用した結果と言われている。
- ・2020年：コロナ禍の影響を受け2.91%となり、20年間でも最も低い水準となった。
- ・2021年：GDP成長率は2.58%となり、成長の主要な原動力は製造加工業。



3-3. 一人当たりGDP推移

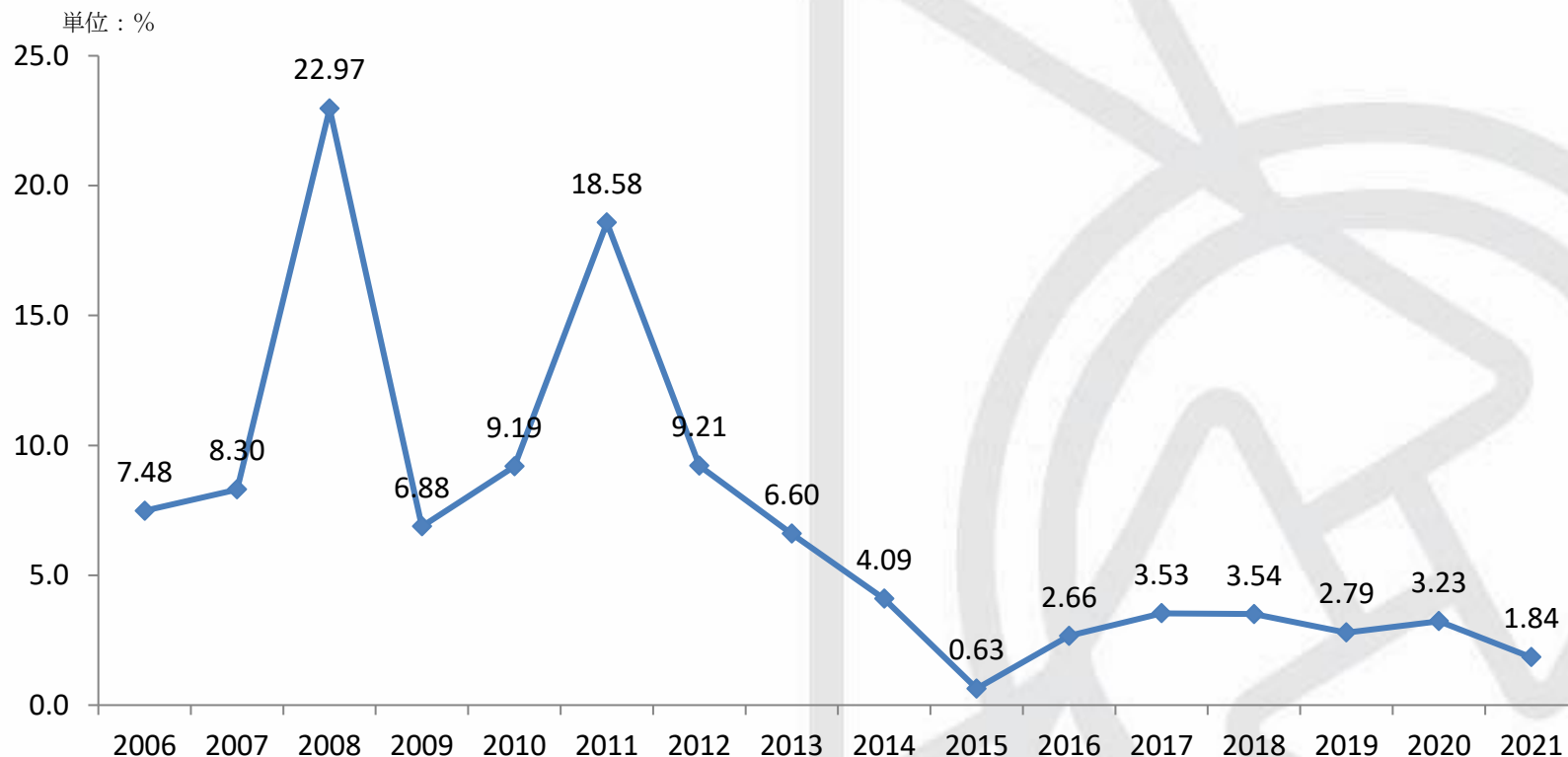
- 一人当たりGDPは増加傾向。9,300万人の国内消費市場は発展途上。今後の経済発展に伴う大きな伸びに期待。
- ベトナムは投資家にとっての潜在市場。外資の増加も継続中。
- 2016年、一人当たりGDPは2,746USDに達し、2015年比164USD増。
- 2019年、一人当たりGDPは3,425USDに達し、2018年比194USD増。
- 2020年、一人当たりGDPは3,526USDに達し、2019年比100USD増。
- 2021年、一人当たりGDPは3,694USDに達し、2020年比168USD増。

単位：ドル



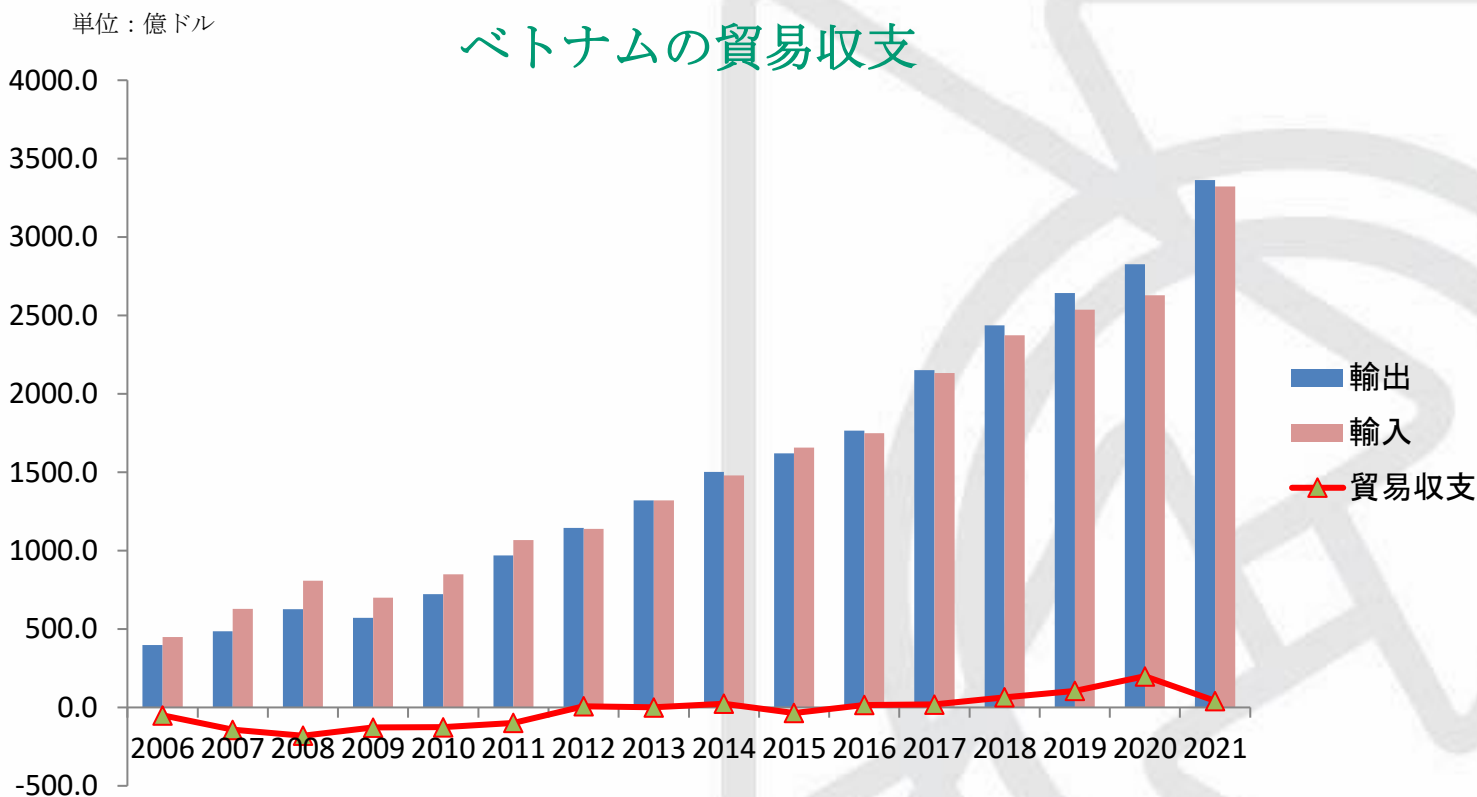
3-4. CPI

- 2014年にCPIは4.09%。燃料価格値下がり。ガソリンを含む燃料の価格は2014年中に政府主導で24回の調整が行われ、2013年12月時点と比較して1リットル当たり6,330ドン（0.295ドル相当）約26%の下落。
- 2015年にCPIは0.63%。国内の燃料価格は世界市場の燃料価格急減とともに、ひきつづき、ガソリンを含む燃料の価格は11月18日と12月3日に政府主導で2回の調整が行われ、ガソリン価格は約3,39%下落。
- 2016年にCPIは2.66%。その中、CPIが一番増えてきたのは薬品、医療サービスであり、5.3%に達した。2016年のインフレ率は1.83%増。
- 2018年CPI上昇率は3.54%となり、ベトナム政府が目標としていた4%を下回った。
- 2019年CPI上昇率は2.79%となり、過去3年間で最低の上昇率である。
- 2020年CPI上昇率は3.23%となり、2019年比0.44%増。
- 2021年CPI上昇率は1.84%となり、2016年以降最低の上昇率である。



3-5. 貿易収支

- ベトナムの輸出入規模は年々拡大傾向。
- 2014年の輸出高1,500億ドルのうち、939.89億ドル（62.58%）は、外資系企業の輸出が占める。
- 2015年の輸出高1,621.1億ドルのうち、1,105.57億ドル（68.2%）は、外資系企業の輸出が占める。
- 2016年の輸出高1,766.3億ドルのうち、1,147億ドル（64.9%）は、外資系企業の輸出が占める。主要輸出市場はアジア地域である。
- ベトナムの貿易収支は4年連続貿易黒字。2019年に貿易黒字は111.2億ドルで新記録を達成。
- ベトナムの貿易収支は5年連続貿易黒字。2020年に貿易黒字は170億ドルで新記録を達成。
- 2021年、ベトナムの貿易収支は6年連続貿易黒字。しかし、貿易黒字額は前年比大幅に減少した。



3-6. 2021年の主要輸出品

2021年、輸出高が100億ドル以上の品目は以下の通りである。これらの8品目はベトナムの総輸出額の約70%を占める。

製品	2021輸出高 (億ドル)	2020輸出高 (億ドル)	2020年比較
携帯電話およびその部品	511.84	575.38	+12.4%
縫製品	298.1	327.54	+9.9%
コンピューター電子製品・部品	445.76	508.29	+14.03%
履物	167.91	177.51	+5.7%
機械設備・同部品	271.93	383.44	+41%
交通手段およびその部品	90.91	106.17	+16.8%
木材・木製品	123.72	148.09	+19.7%
鉄鋼	52.58	117.95	+124.3%

3-7. 2021年の主要輸入品

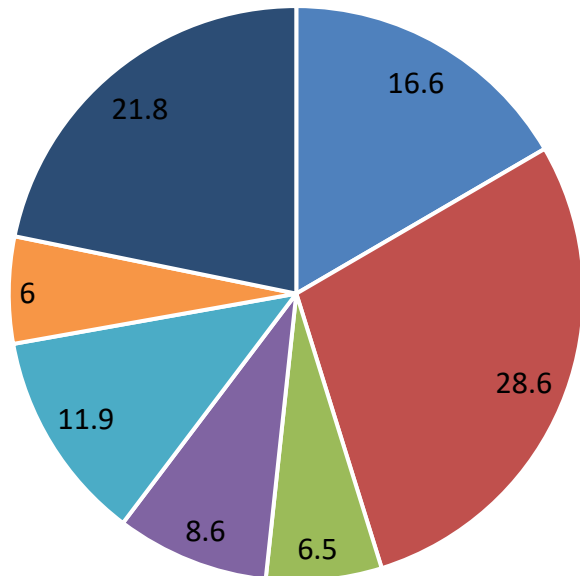
2021年、輸入高が100億ドル以上の品目は以下の通りである。これらの6品目はベトナムの総輸出額の約54%を占める。

製品	2020輸入高 (億ドル)	2021輸入高 (億ドル)	2020年比較
コンピューター電子製品・部品	639.71	754.41	+17,9
機械設備・同部品	372.51	462.96	+24,3
携帯電話およびその部品	166.45	214.35	+28,8
鉄鋼	80.67	115.23	+42,8
樹脂材料	83.97	116.86	+39,2
各種生地	118.76	143.25	+20,6

3-8. 2021年の主要輸出入市場

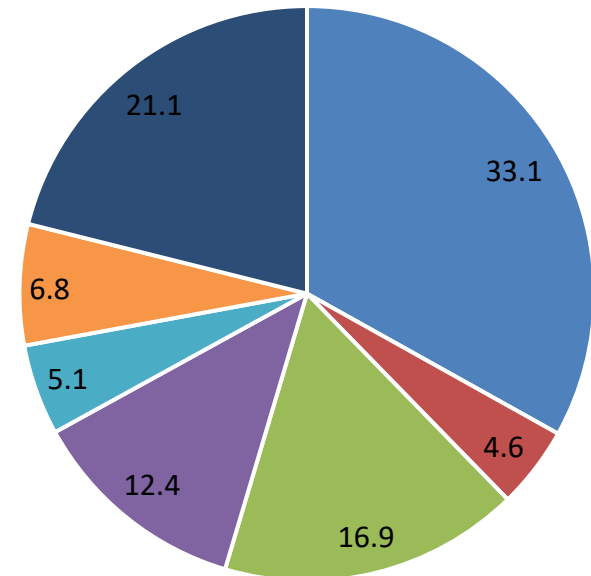
- 主要な輸出市場はアメリカ、中国、韓国、日本などである。

主要輸出市場(%)



■ 中国 ■ アメリカ ■ 韓国 ■ ASEAN ■ EU ■ 日本 ■ その他

主要輸入市場(%)



■ 中国 ■ アメリカ ■ 韓国 ■ ASEAN ■ EU ■ 日本 ■ その他

3-9. ベトナムへのFDI構造

2021年のFDI件数は3前年比3.5%減少した。一方、認可額は前年比9.2%増加した。

		(単位: 件、億ドル、%)			
国		合計			
		件数 (新規+拡張+株式取得)	前年比	認可額 (新規+拡張+株式取得)	前年比
1	シンガポール	646	-25.4	107.122	+19.1
2	韓国	1942	-30.29	49.53	+25.43
3	日本	540	-43.16	38.97	+64.59
4	中国	754	-41.1	29.22	+18.8
5	香港	302	-31.21	23.16	+15.81
6	台湾	333	-48.13	12.52	-39.18
合計(その他を含む)		6,520	-33.5	311.53	+9.2

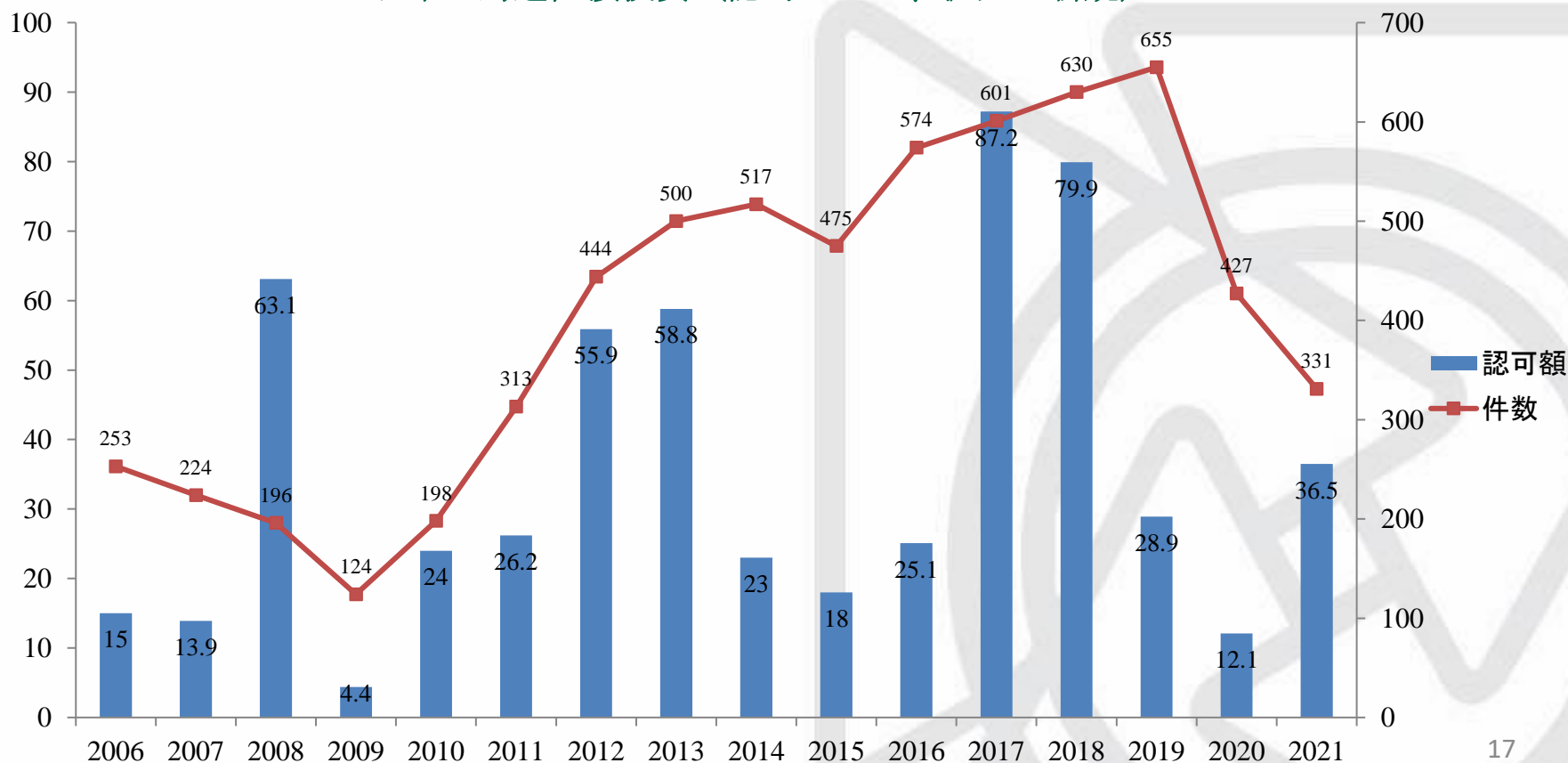
3-10. 日本からの対ベトナムFDI

- ・ 2012年から回復傾向。
- ・ 2014年、2015年に、日本のFDIは二番手に。最近は中小企業やサービス業の進出案件が目立つ。
- ・ 2016年、日本のFDIは新規・追加の合計で各国・地域中第4番目
- ・ 2020年、日本からのFDI認可額は地域中第7番目、認可額が58.3%減
- ・ 2021年、日本からのFDI認可額は地域中第3番目、前年比64.59%増

単位:億ドル

日本の対越直接投資（認可ベース、拡大+新規）

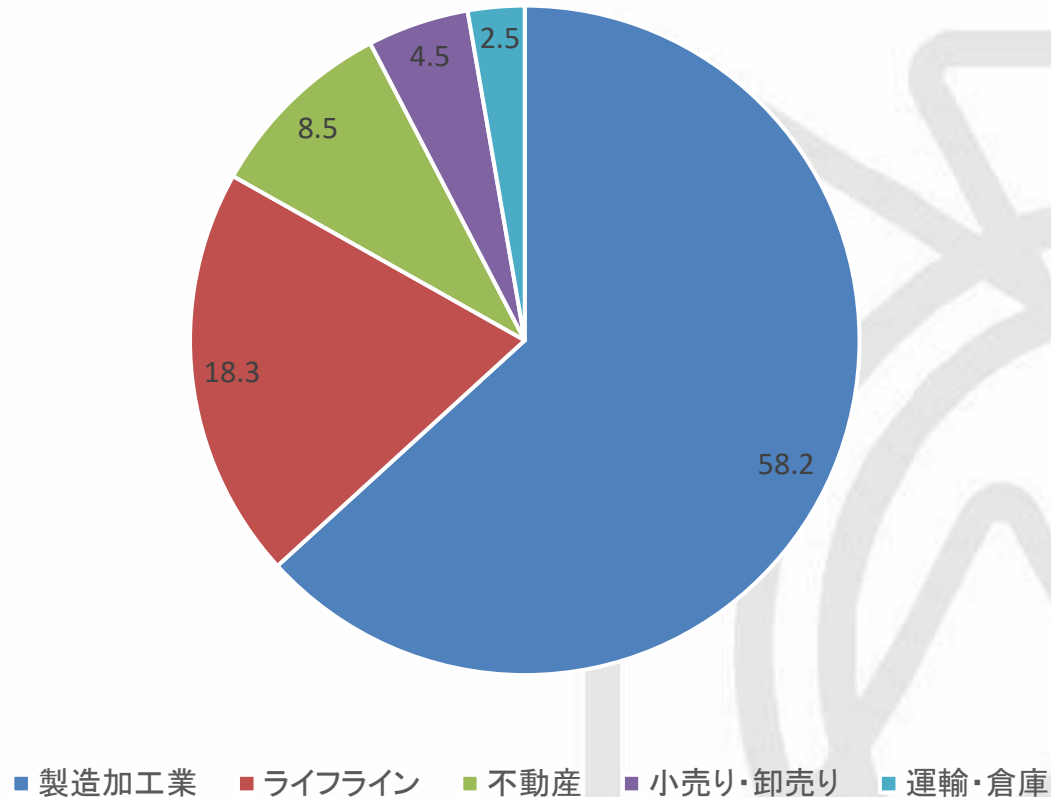
単位:件数



3-11. 日本の対越直接投資(分野別)

- 製造業が最多。

日本の対越直接投資(%分野別)



3-12. 市場概況1 全産業の状況1

- 鉱業生産指数は2016年10か月の前年比で7.2%増。（2015年は前年比で6.5%増）。
- 同様に製造業（食品加工、製靴含む）の生産指数は11.9%増。（2015年の前年比が6.5%増）
- 全体的に、景気回復傾向にある。
- 2020年には、鉱工業生産指数は前年比3.4%の増加。

前年比較の業種別成長

業種	鉱工業生産指数 (2021年)
加工・製造業	+6.0%
電気生産・配電など	+4.9%
給水、廃棄物・排水処理	+2.7%
鉱業	-5.8%
産業全体	+4.8%

3-13. 市場概況2 全産業の状況2

前年比較の製品別成長

製品	生産量(2020年)	生産量 (2021年、暫定)	単位	前年比較
携帯電話	2.016	2.168	億台	+7%
自動車(組立)	25.76	30.74	万台	+16.2%
テレビ(組立)	1361.84	830.86	万台	-63.9%
バイク(組立)	328.53	326.33	万台	-0.7%
牛乳	12.97	12.45	億リット	-4.2%
革靴	2.87	3.13	億足	+8.3%
衣服	54.07	55.96	億枚	+3.4%
原油	1147	1097	万トン	-4.6%
粉ミルク	12.92	14.36	万トン	+10%

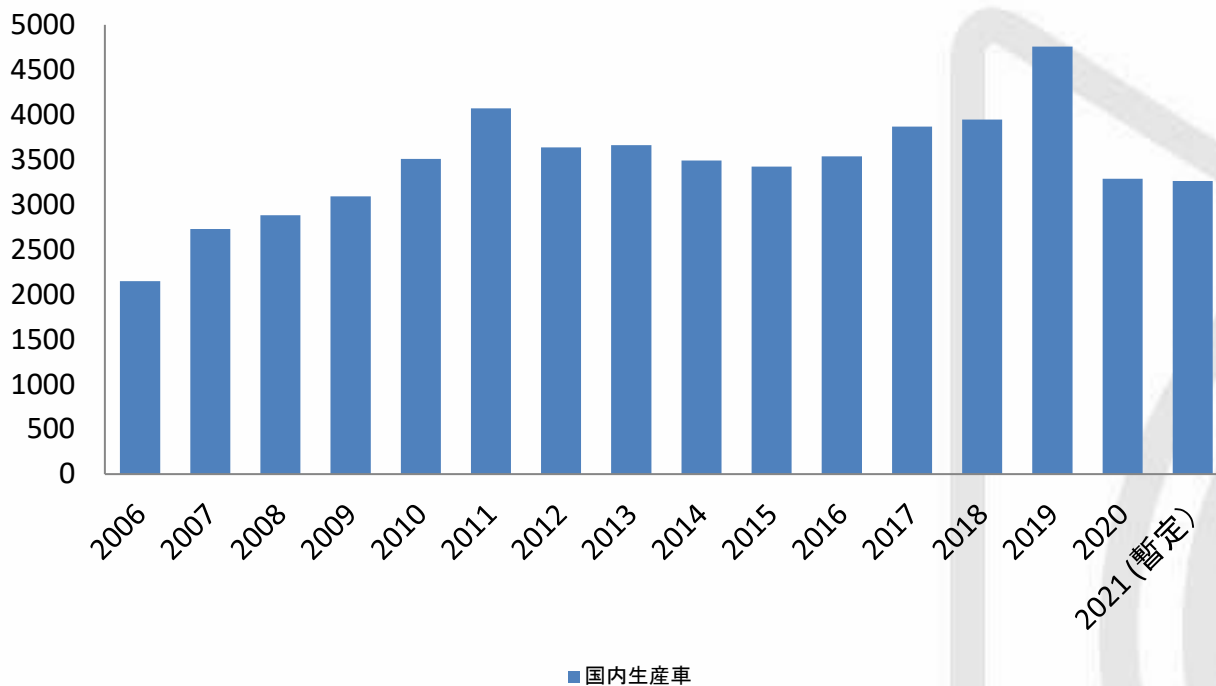
3-14. 市場概況3 バイク

・ 2012年以降、減産傾向。専門家の予測よりも8年早く飽和。（2020年に3,350万台の販売累計の予測、2012年時点で到達。）。2012年4226.6千台、2015年の2871.3に、1355.3千台（約32.1%）減少した。

バイク完成品・部品輸入高

単位：億ドル

単位：千台



■ 国内生産車

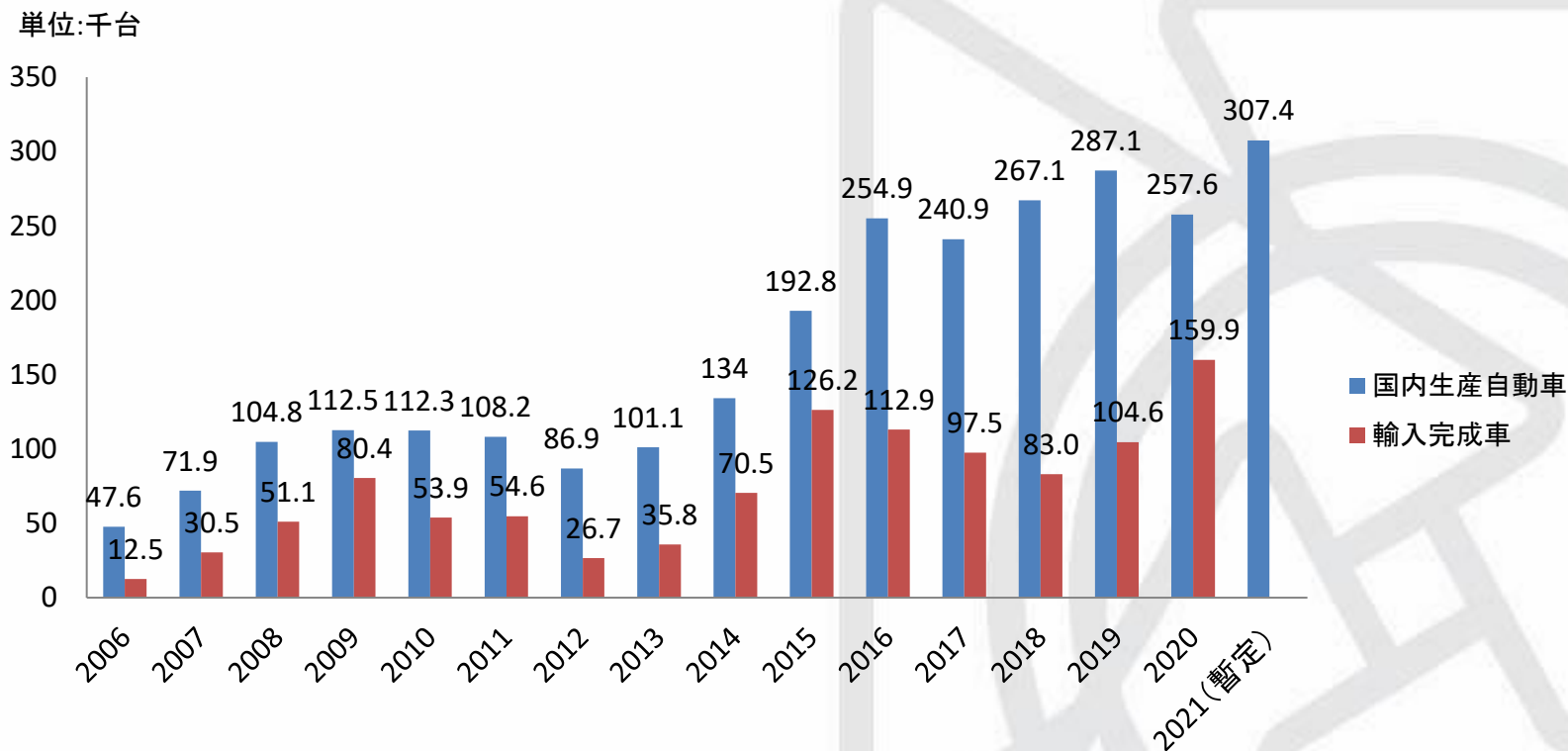
	輸入高
2006	5.574
2007	7.25
2008	7.596
2009	7.559
2010	8.906
2011	8.328
2012	6.373
2013	5.662
2014	3.913
2015	3.679
2016	4.644
2017	4.906
2018	2.686
2019	8.477

(資料) : ベトナム統計総局 <http://gso.gov.vn/default.aspx?tabid=720>;
ベトナム税関総局

<http://www.customs.gov.vn/Lists/ThongKeHaiQuan/SoLieuDinhKy.aspx?Group=S%u1ed1+li%u1ec7u+th%u1ed1ng+k%u00ea>

3-15. 市場概況4 自動車

- 国内市場の未成熟。
 【世帯普及率】：都市部3%、地方部0.5%
 【税率】：VAT税10%、自動車特別税（約50%）、登録料、完成車輸入税83%
- メーカー単位の生産台数の少なさ（例：TOYOTA 35,000台/年、5車種。）
- モータリゼーションの未到来。（2020年代中ごろとの予想。） 2018年以降の関税撤廃がキー。

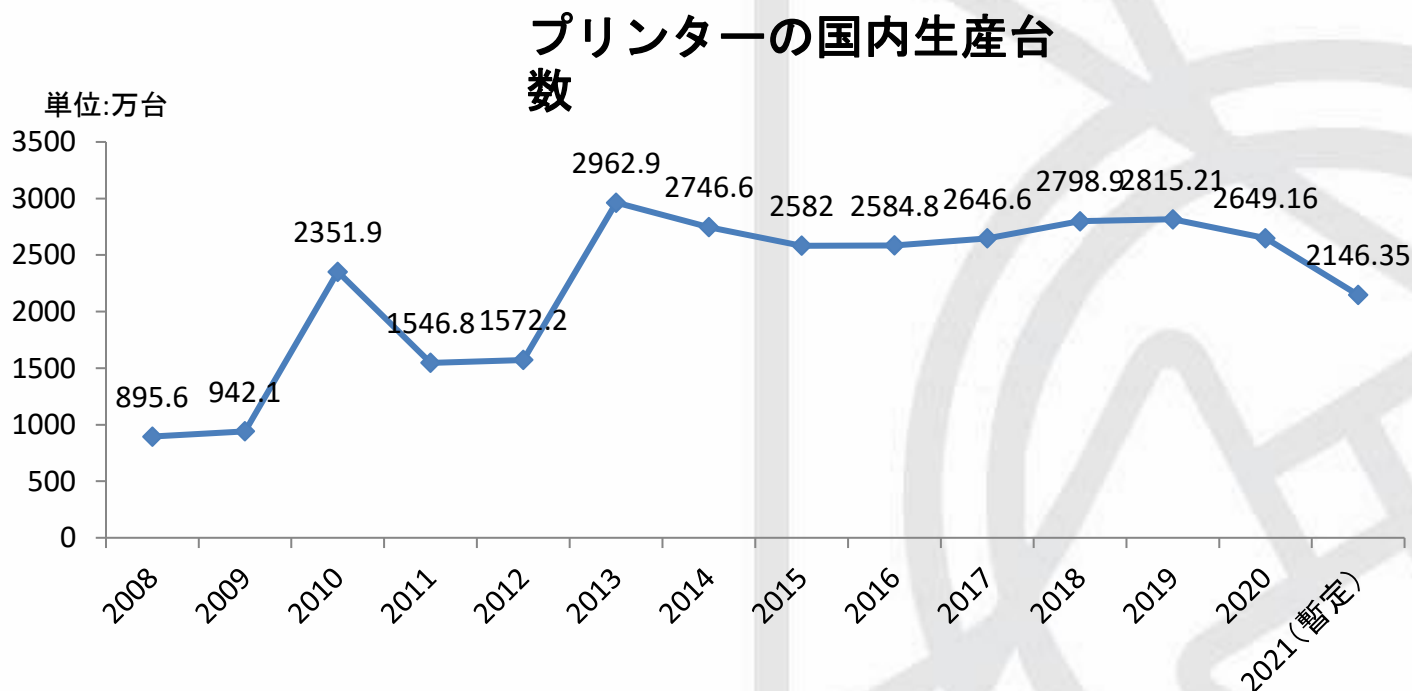


3-16. 市場概況5 プリンター

- 長年の増産体制を継続。
- 盤石な調達体制。(低価格、良品質。日系・ローカル)
- 富士ゼロックスの参入
- 40万台市場、1,000万台越えの生産(輸出多い)

需要のポイント

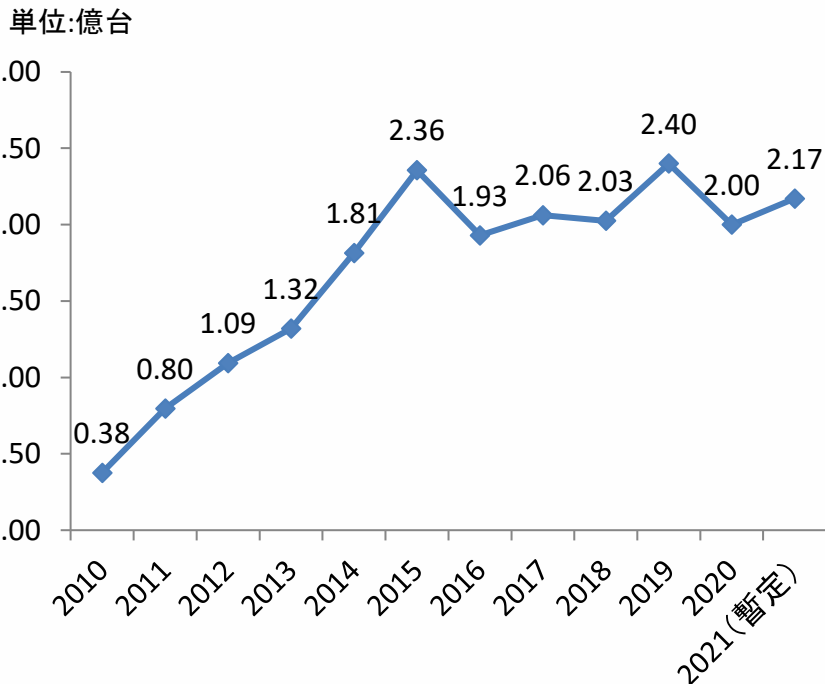
薄利多売の量産体制
 メーカーの内製化に注意
 ライバル多し



3-17. 市場概況6 携帯電話

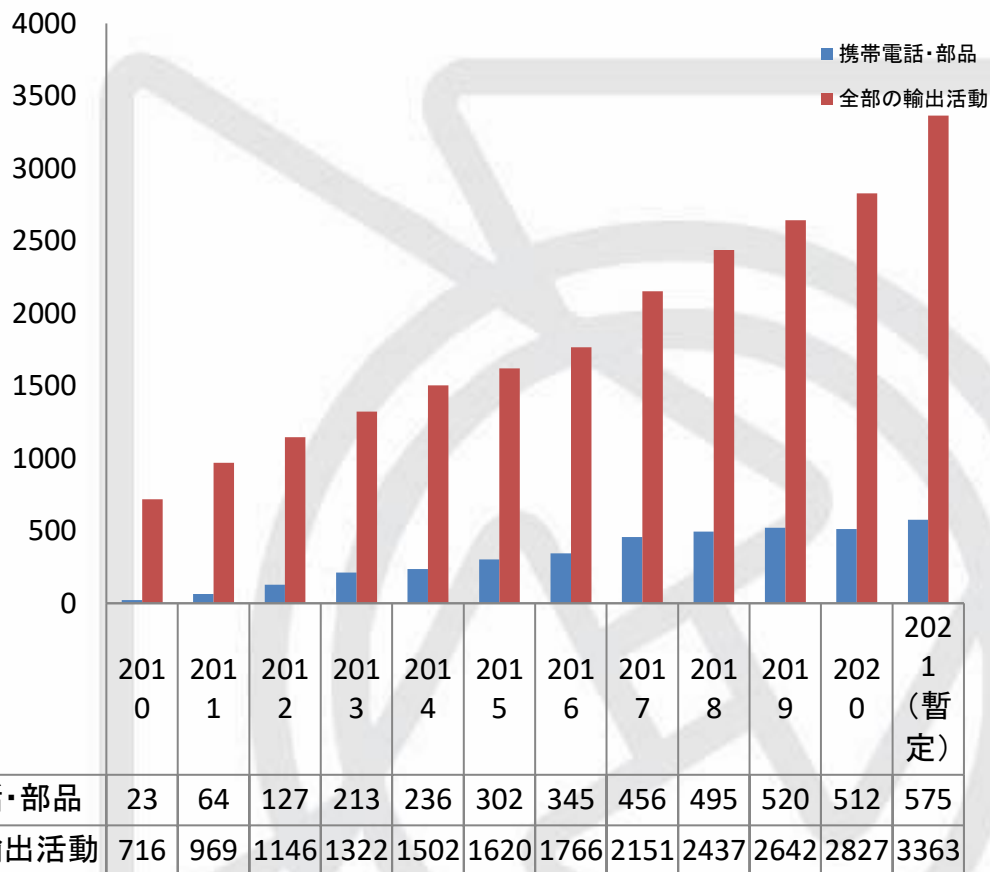
- サムソンの大量生産体制により、飛躍的に生産台数を伸ばしている。
- 輸出増により、ベトナムの貿易収支にプラスの影響。
- 携帯電話の集積地化。

携帯電話の国内生産台数



単位:億ドル

携帯電話の輸出推移



(資料) : ベトナム工商省 <https://moit.gov.vn/tin-tuc/phat-trien-cong-nghiep/nganh-dien-tu-viet-nam-trong-cuoc-cach-mang-4.0.html>
 ベトナム統計総局 <https://www.gso.gov.vn/du-lieu-va-so-lieu-thong-ke/2021/03/xuat-khau-dien-thoai-va-linh-kien-mat-hang-chu-luc-cua-viet->

まとめ：ベトナムとのビジネス

ベトナムはチャイナプラスワン、タイプラスワンと言われ長い年月が経ったように思われますが、未だ進出先として考える国のトップに位置する国であるということ、親日であること、安全・安定した国家、勤勉な国民、日本と同等な人口などなどいくつかの理由が挙げられています。

ベトナムビジネスをする上で、進出だけでなく、外注先・代理店との提携、人材育成のための人的交流、技術提携など様々な方法があります。また、企業規模、短期・長期的プラン、顧客からのリクエスト、ベトナム人実習生の帰国後の受け皿として法人設立など、多くの要素を総合的に判断して、現在取るべき方向性を見出していただければと思っています。

人件費は周辺諸国に比べると安いかもしれませんが、現地で製造されるものは思いのほか安くないことに多くの企業が驚かれ、日本製品の販路拡大においては、そんなに高いものは売れないと壁にぶち当たっています。

そういった中で、ベトナムとのビジネスを僅かながらでも、段階的に始めている企業がありその方法は様々です。

「アセアンにビジネス拠点を」といった中で、内需向け市場もこれからであろうベトナムは可能性を秘めていると思います。

サポートデスクにまずご相談ください！